

防疫作業の安全性確保と効率化に重点を置いた HPAI 防疫演習

京都府中丹家畜保健衛生所

○中川一樹 加藤あかね

【はじめに】当所では、HPAI 発生時における初動対応や農場での殺処分等の一連の防疫作業をより迅速かつ適確に行えるよう、毎年、農場で実地演習を実施している。今回は関係機関と連携し、府内最大規模の採卵鶏農場（40 万羽）において動員者の安全性確保と効率的な防疫作業に重点を置いた演習を実施した。【演習内容】以下の実地演習を行い、演習後には参加者のアンケート調査を行った。①先遣隊による初動防疫演習、②現地対策本部、農場前線基地及び救護所における感染防止対策・救護演習、③農場内における捕鳥から搬出までの防疫作業演習（2 クール実施）。【結果】感染防止対策・救護演習では、動員者の感染防止や作業前後の検診、作業中の事故発生時等における救護の流れを点検し、作業者の安全性確保にも留意した手順を確認できた。また、農場内での防疫作業演習では、1クール終了後、より効率的な人員配置について意見交換する時間を設け、配置を変更した結果、2 クール目では同じ動員数で単位時間当たりの処理羽数が約 2.5 倍に増加する等、作業性の向上が図られた。アンケート調査では、98.7%の参加者から「実践的な安全対策や作業の効率化に取り組んだ今回の演習は有意義であった。」との回答を得た。【まとめ】平成 16 年の府内 HPAI 発生未経験の府職員が 4 割近くを占める中、発生に備えた危機管理体制を一層強化するため今後も実践的な演習を継続し、作業工程等の改善に努める。